

緊急対応時・119番対応時マニュアル

令和7年3月7日作成

NPO法人 寺子屋ミニデイサービスの会
放課後デイサービス寺子屋

目次

- 1 本マニュアルの目的
- 2 救急対応時の手順
- 3 119番対応時の手順
- 4 緊急連絡先

1 本マニュアルの目的

救急対応や 119 番通報が必要な場合において、その手順や必要な知識を職員間で共有し、

もって円滑な対応により利用者や職員の生命や身体の安全を確保することを目的としています。

2 救急対応時の手順

（1）救急対応が必要な場合とは

サービス提供時に発生した、利用者の病状の急変、生命の危険等のことをいいます。

（2）救急対応のための事前準備

①事前の情報収集・整理

いざというときのために、利用者の疾患情報について収集・整理しておきましょう。

収集方法：医師の診断書、利用者本人及び保護者からの聞き取り

収集すべき情報の種類：過去の疾患情報、現在治療中の疾患情報

②利用者に関する状態把握

モニタリングや日々の出欠連絡の機会を活用して、利用者及び保護者とコミュニケーションを取り、状態把握に努めましょう。

利用者及び保護者との信頼関係を強化し、いつでも利用者及び保護者が情報を発信しやすい環境を整えることで、利用者の状態把握をしやすくなります。

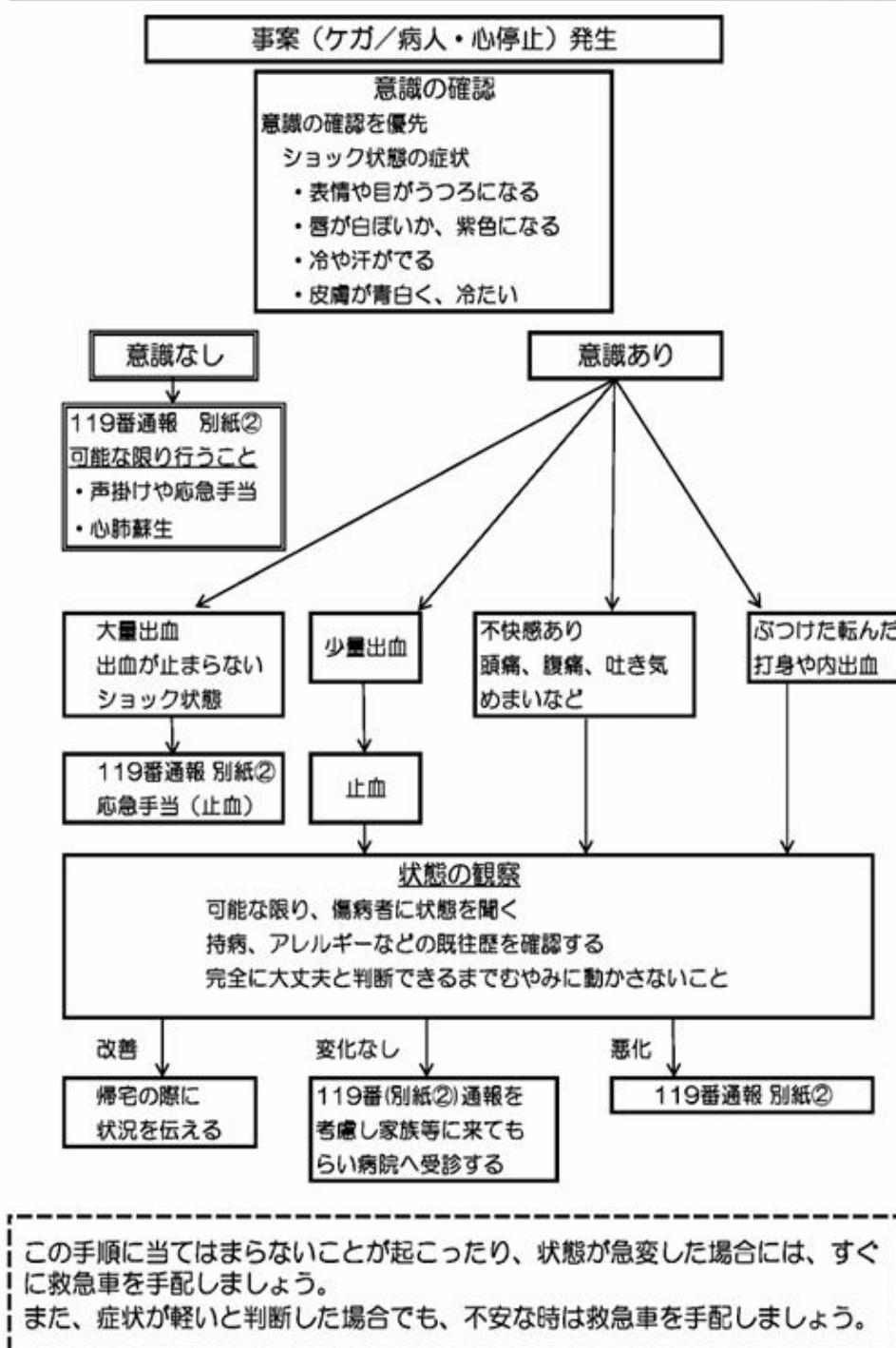
来所時の利用者の顔色や熱感等の状態観察も重要です。

（3）救急対応時の手順

次ページのフローチャートに従い、対応してください。

■緊急時手順マニュアル

通いの場



(4) 基礎的な応急手当

①止血及びやけど、骨折

下記には、簡単な応急手当の方法を例示しています。

詳細は別紙応急処置マニュアルを参照してください。

基礎的な応急処置

止血

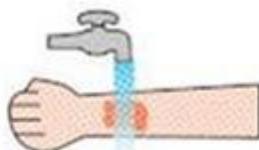


出血部分を清潔なガーゼや布でやや強めに押さえる



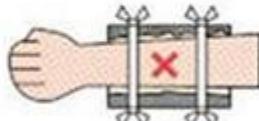
タオルなどで傷口より心臓に近いところをしばる

やけど



きれいな水で15分以上冷やす

骨折



棒、新聞紙、板きれなどで痛くない箇所を固定する

②心肺蘇生及びAED 使用方法



3 119番対応時の手順

■119番通報マニュアル

通いの場

1. 119番にダイヤル
2. オペレーターによる問い合わせ：「火事ですか？ 救急ですか？」
3. 問い掛けに対して「救急です」と応える
4. オペレーターの指示により必要事項を伝える

必要事項

◎ ケガ・病人の状態を正確に伝える

- ・傷病者の数、性別、年齢など
- ・意識、呼吸、脈拍、出血、外傷などの有無
- ・どのようにケガをしたか、どんな状況で倒れたかなど詳しく
- ・現在行っている処置
- ・不明確な情報は逆に妨げとなる場合もあるので正確に伝えること

◎ ケガ・病人がいる施設名と施設内の場所

施設名：○×防災コミュニティーセンター 場所：1階の部屋

◎ 住所： (必要に応じて)

◎ 目印となる建物など： (必要に応じて)

◎ 通報者の名前： 電話をしている人の名前

◎ 電話番号： 今使っている電話の番号

通報後、再度オペレーターや救急車より電話があるかもしれませんので、現場の状況を確認しながら、電話のそばで待機する。その際、その電話で他の場所などへ通話をしない方が好ましい。家族などへの連絡は他の電話回線を使用し、救急隊からの電話が常に取れる状態にしておくこと。

【119番のかけ方】

○ 携帯電話

通報場所や電波状況により隣接する市町の消防につながることがあります。この場合は、該当する地域の管轄に転送となりますので、自分がいる場所を伝えて係員の指示に従って下さい。

○ 一般加入電話

普通の通話要領で119番を回します。

○ 黄色や緑色の公衆電話

受話器を外して緊急呼出器の119番を回す。
プッシュホン式は、赤ボタンを押して119番

○ 赤色やピンク色の公衆電話

管理者に鍵を外してもらう（10円を入れても119番へは通じない）

4 緊急連絡先

救急車	119
かねこ医院	047-372-7611